

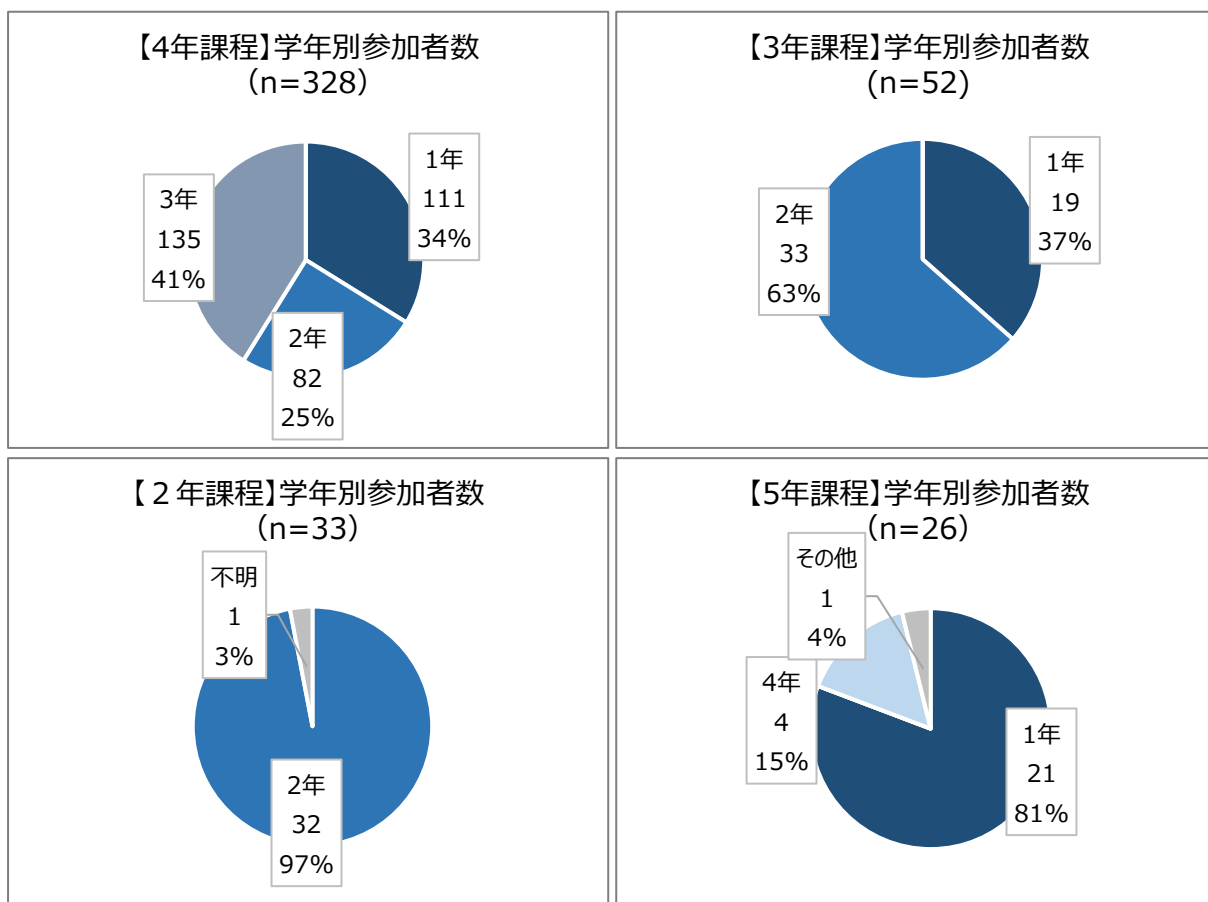
令和7年度 学生向け訪問看護ガイダンス アンケート結果

I. 参加者数、アンケート回答率

学校種(案内校数)	参加数	教員数	学生数
大学 (19校)	5校	10名	491名
専門学校 (17校)	5校	12名	225名
高等学校 (1校)	1校	2名	39名
計(37校)	11校	24名	755名

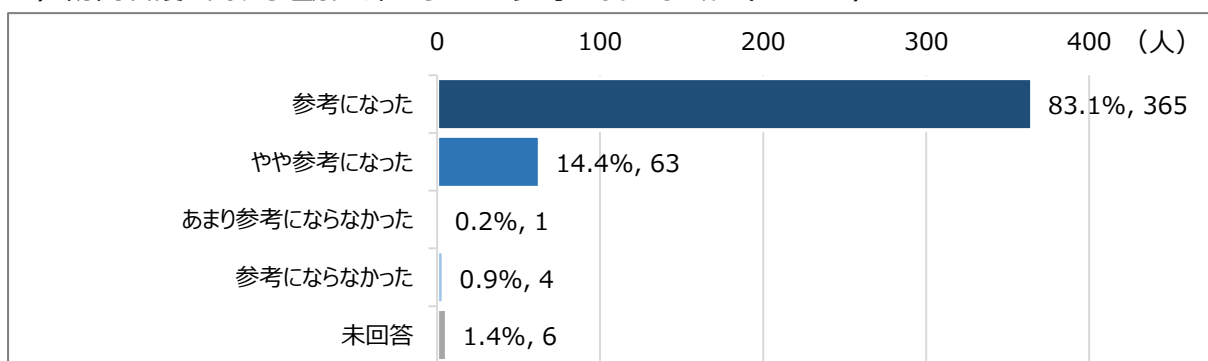
学生参加者数 755名(11校)、アンケート回答者 439名、アンケート回答率 58.1%
 教員参加者数 24名(11校)、アンケート回答校 9校、アンケート回答率 81.8%

II. 参加学年一覧

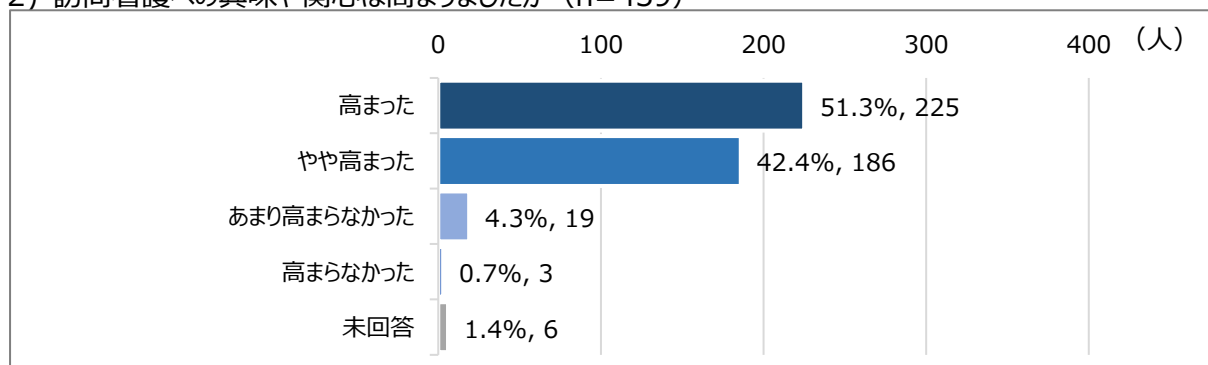


Ⅲ. 学生向け訪問看護ガイダンスについて

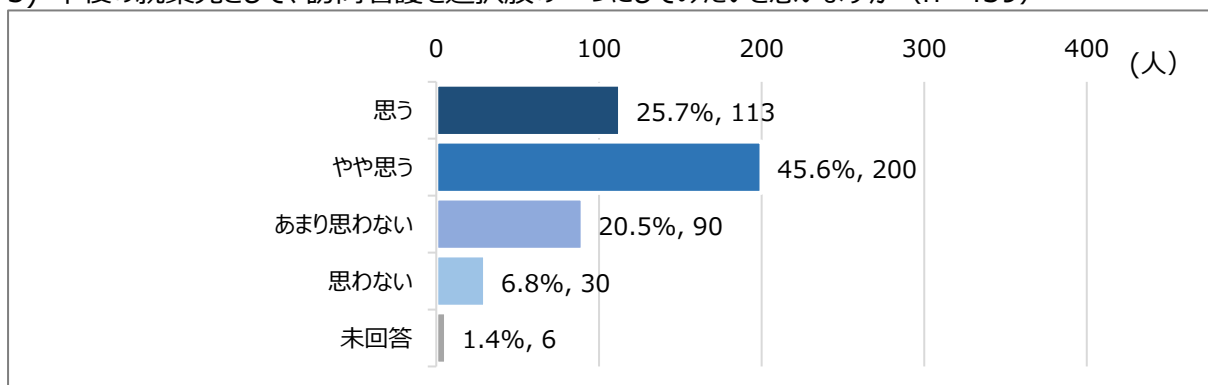
1) 訪問看護に関する理解を深めるための参考になりましたか (n=439)



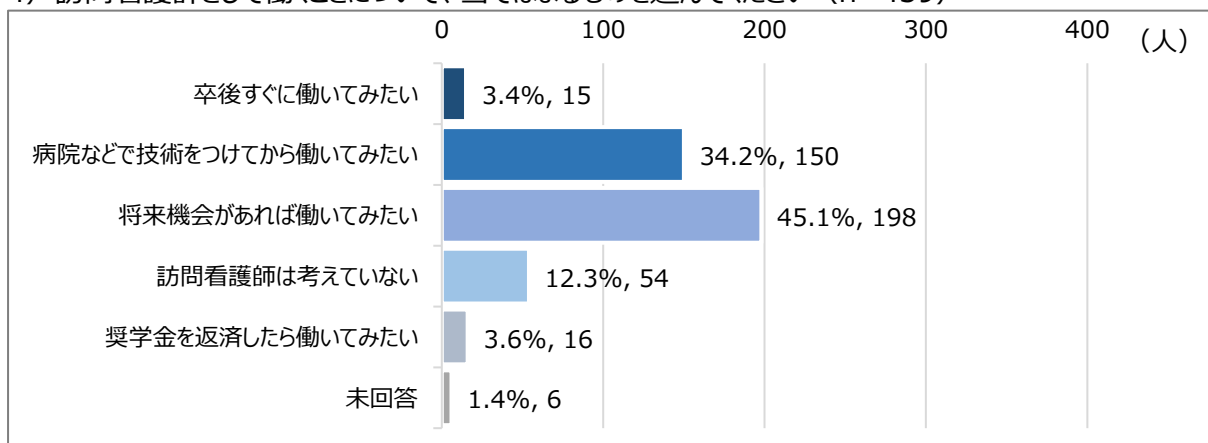
2) 訪問看護への興味や関心は高まりましたか (n=439)



3) 卒後の就業先として、訪問看護を選択肢の一つにしてみたいと思いますか (n=439)



4) 訪問看護師として働くことについて、当てはまるものを選んでください (n=439)



IV. 感想や質問、ご意見などあればお聞かせください（200 文字以内）

- ・手書きデータは、OCR でデータ化できた感想のみ採用しました。
- ・コメント 210 件のうち、「ありがとうございました」等の謝辞、「特にありません」等は削除しています。

<感想、気づき、興味、考えの変換>

1. 参考になりました。
2. 講義とても興味深かったです。
3. 在宅看護について理解できた。
4. 今後に役立てていきたいです。"
5. 訪問看護にもっと興味がわきました。
6. 卒業した後の将来の幅が広がりました。
7. 訪問看護について知ることができました。
8. 訪問看護について知ることができました。
9. 現在の出生率の少なさに改めて驚きました。
10. 看護協会の活動内容をよく知ることができました。
11. 訪問看護師のやりがいについて学ぶことができました。
12. 訪問看護はその人の生活を大切にしているのだと感じた。
13. 訪問看護もチーム医療で成り立っていることがわかった。
14. 座学では知り得ないことを学ぶことができよかったです。
15. 訪問看護について勉強になり、将来の選択肢が広がりました
16. 看護師として働く場所はたくさんあるのを知ることができた。
17. 今後の勉強やキャリア選択の際に参考にさせていただきます。
18. すごくいいお仕事なことがわかった個別性を大切にできるお仕事
19. 出生数や高齢化などの社会的な問題は看護に直結すると学んだ。
20. 実習で終末期のがん患者さんをうけもったから関心深かった。
21. 臨床経験がそんなに長くなくても働けるのはとてもびっくりした。
22. 訪問看護はあまり考えたことなかったので、いろいろ勉強になった。
23. わかりやすく、訪問看護ならではの魅力を沢山知ることが出来た。
24. 患者一人ひとりとじっくり長期的に関われるのは魅力だと感じました。
25. 病院と違って 1 人の患者さんに時間をかけられるのがいいと思いました
26. 訪問看護の目的や実際に行なっていることが具体的でわかりやすかった。
27. 訪問看護師は看護師より、患者 1 人と寄り添ったケアができると感じた。
28. 訪問看護に対する考えや疑問などについて知ることができたので興味が湧いた。
29. 訪問看護は、病院で働くよりも多職種との連携が重要であるということが分かった。
30. 訪問看護師は臨床経験を積んでからするイメージがあったため、参考になりました。
31. 新卒じゃ無理かと思ったのですが、考えられるかもしれないという希望が持てました。
32. 卒業後、ストレートで訪問看護の道があること、教育体制があることを知れてよかった。
33. 実際の体験談を聞くことができたため、想像がしやすかったです。
34. 在宅医療の現状についての実際を学ぶことができ、将来の進路選択の参考にしたいと思います。

35. 在宅看護についてあまり知らなかったが、研修やサポート体制について知ることができました。
36. 同居していた祖父が亡くなる前訪問看護を利用していたので、訪問看護に興味がありました。
37. 時間に追われて病棟で働くのではなく、1人の利用者向き合える訪問看護にすごく興味がわきました
38. 訪問介護では病院とはまた違った患者さん一人ひとりにもっと寄り添った看護ができると思いました。
39. 訪問看護のことをさらに知ることができました。今後の進路の視野に入れてみたいと思いました。
40. 訪問看護は病棟よりも患者さんと長い期間関わることができ、やりがい大きい仕事だと感じました。
41. 訪問看護師として実際に働いている方の訪問看護師になるまでのキャリアなどが知れてよかったです。
42. 高齢者が安心して病気を患っていても自分らしく生きていくことを大切にしたい看護をしたいと感じました。
43. 将来的に訪問看護してみたいと思ってたので、1年目からの話も動画で見れてすごく参考になりました。
44. 今回の講演で、在宅看護の実際を知ることができたので、より現実的に考えることができる機会になりました。
45. 在宅は経験を積まなければできないと思っていたので卒業後すぐに働けるときいて就職の幅がひろがりました。
46. 在宅看護について、患者さんとの関わりが病院とでは大きく異なるということから興味を持つことが出来ました。
47. 患者さんとのかかわりが密接で患者さんとの信頼関係を築き安心して看護を受けてもらえる環境が素敵だと感じました。
48. 看護の中で患者さん一人一人に合った看護を提供することができ、患者の声に耳を傾けることができる看護職だと思った。
49. 病棟以外の就職先として選択肢が広がりました。自分の中ではあまり病棟で働く選択を避けたいので良いお話を聞けました。
50. 訪問看護はなにをする所なのかよくわかっていなかったが、今後在宅医療が増えていく中で大切な職業ということを学びました。
51. 訪問看護師になることを全く考えていなかったのですが、今回の講義を聞いて興味が湧き将来の選択の一つにしたいと思いました。
52. 病院と訪問看護で働くにあたって、環境が異なると自分にどのような学びが得られるのか、実際に働いて知りたいと思いました。
53. 訪問介護はイメージがつくが、看護となると何が違うのか、どういう内容なのかしりたかったので、とても良い機会になりました。
54. 在宅医療があるおかげで通院が困難となっている患者さんもサービスを受けることができるため、とても良い制度だなと思いました。
55. 人を見るのが訪問、病院は疾患を見るのがすごく共感しました。一人一人のじっくり話せるのも訪問看護の魅力だなと感じました。
56. 正直病棟看護師を3年やれるのか不安で訪問看護については元々考えていたので今回のガイダンスを通して働いてみたくなりました。

57. 今後在宅看護を行う機会がある時、利用者や家族が安心して在宅療養を続けられるよう、信頼関係を築ける看護を行いたいと感じました。
58. 人口の推移などから 2040 年に看護が必要とする人が増えるということを知りました。また、訪問看護の必要性についても学ぶことができました
59. 講義を聞いて、看護師の仕事の幅が広がりました。訪問看護ならではのやりがいや、患者さんとの関わり方があってすごく魅力的だなと思いました。
60. 在宅看護の魅力が今までなかなか分からなかったが、今日の講義を聞いて、ひとりひとりの患者を大切にすることが出来るという点に魅力を感じた。
61. 地域看護はある程度興味あるが、私は将来、病院で外来で働いていきたいと考えています。労働者が学校に通う人のための看護をしていきたいです。
62. 訪問看護はその人のこだわりが強く気を遣って関わらないといけなイメージがありましたが、訪問看護の魅力を知り興味を持つことが出来ました。
63. 訪問看護師として働く際の不安やその克服方法について知ることができたので、訪問看護師をして働くハードルが下がったように思います。
64. 訪問看護は入院よりも患者さんとの関係がより深く、看護として大変な部分もありながらも、その人の生き方を知るという面では楽しそうと感じました。
65. 訪問看護は臨床経験を積まないと勤められないイメージがあったけど、研修等が充実しているので新卒から訪問看護の世界に飛び込むことも可能だと学んだ。
66. 訪問看護師は、患者さん一人ひとりとじっくりと関わることができるのだと感じた。人が少なくなってくるから、質の高い看護が重要になってくると思った。
67. いろんなところに働く場所があって、1人で悩まずに相談することも大切だということ。病院とは異なり、家族や患者さんの想いに寄り添うことができる訪問看護
68. 経験が浅い看護師でも安心して努められるように手厚いサポートがされていることがわかり、訪問は一人でも孤独じゃない環境が整っていることがわかりました。
69. 臨床での看護の経験があまり多くなくても訪問看護師として働くことができるんだと初めて知った。就職していつか機会があったら訪問看護師も考えてみたいと思った。
70. 私は、精神科で勤務していますが、奨学金終わったら一般科で学んでから訪問看護に行きたいと思います。今後、法律が変わって精神の訪問看護や在宅療養が増えると思うので。"
71. 訪問看護のイメージで、臨床で長年働いて知識をつけてから働くイメージが強かったので、臨床経験が短くでも働けるという事を知ることができ、興味を持つことが出来ました。
72. 患者さんと向き合う時間が増えるということに魅力を感じました。将来臨床経験を詰んだら、看護の質を重視していきたいなと漠然と思っていたので訪問看護に興味を湧きました。
73. 今回、看護協会の講演を聞いて、訪問看護は全体的に臨機応変な対応が必要であるということを知ることができ、幅広い知識と様々な視点で物事を見る力が必要であると思いました。
74. 訪問看護は病院のように治療を集中的に行っているというわけではなく、長期にわたって看護していくものなので、特に患者に合った看護を必要とするということが印象に残りました。
75. 将来的に訪問看護には行きたいとおもっているが、やはり大きな病院で経験を積んで、自分に自信をつけてから挑みたいと改めて感じた。ナースセンターはとても活用したい！心強いと思った。

76. 訪問看護は、新卒では働けないというイメージがあったけれど臨床経験が少なくても大丈夫なような仕組みがあったりして臨床経験に関わらず、働きやすい環境なんだということが印象的でした。
77. 訪問看護は病棟の看護と働き方や患者さんとの向き合う時間が異なることを改めて感じました。また、臨床経験が少なくても働くことができるようになっていくことを知り、少し興味を持ちました。
78. 訪問看護師という職業について改めて詳しくお話を聞き、病棟看護師とは大きく違い 1 人の患者さんへ集中的に接することができ、本人の望む最期の形に寄り添える素敵な看護師像だと思いました。
79. 私も臨床を経験してからでないと訪問看護はできないという印象があったため、新卒看護師でも訪問看護師になることができる事をこの講義を通して知れたので良かったです。少し興味がわきました。
80. 在宅医療の現状と千葉県の在宅看護の施策などについて詳しく理解することができた。詳しいことは特にまだ決めていないが、臨床を経験した後在宅看護を行おうと思っていたので、とてもためになった。
81. 実際に訪問看護師として働いている方の話を聴くことで、より訪問看護とはどのようなものなのか、訪問看護のやりがいなどを学ぶことができ、卒業後の進路の一つとして考えることができるようになりました。
82. 忙しかったり、過酷な現場だったりしたときに、移動時に車の中で音楽を聴いたり、外の風を浴びたりしてリフレッシュしながら看護師としての仕事を楽しむことができると言う言葉がとても印象に残りました。
83. 訪問看護についてとても興味がわく講義でした。私は患者さんとの関わりを長く大切にしていきたいと考えていたため、お一人お一人にじっくりと向き合うことの出来る訪問看護はとても魅力的であると考えました。
84. 訪問看護に対して具体的に学ぶことができよかったです。1 人で利用者さんのもとへ行くことが不安だなと思っていたけれど、SNS などのツールを活用して共有することができるので安心できるなと感じました。
85. ケアをしているつもりが、いつの間にかケアをされている側だったという言葉が印象的でした。自分一人で抱え込まずに周囲に助けを求めたり、相談したりと、自身の体調管理をしていくことが大切なのだ学びました。
86. 病院と異なり、患者さん一人に対して看護できるというところに大きな魅力を感じた。病院だと同時に何人もの患者さんを受け持たなければならないからゆとり時間をかけたくてもかけられない現状が少し辛いなと思った。
87. 訪問看護だからこそ得られる達成感ややりがい、特徴などが知れて、病院で行う看護よりもその人との関係が深くなり、決められた時間をその人だけに向けることができるということがわかり、訪問看護に関心がわきました。
88. 看護協会では、看護の質の向上・働き続ける環境作り・看護領域の開発・展開などの看護職の活動を支えていると学ぶことができました。今回の講演を通して、訪問看護への興味が高まったので、自分自身で調べてみようと感じました。
89. 訪問看護師として働くうえで、自分一人で急変したらどうしようなどの不安もあるということもあるが、その反面、自宅での患者さんの希望をできるだけ尊重した個別性を重視した看護やその家のルールを尊重した看護を提供できると考えた。

90. 訪問看護について、そこまで理解が今までなかった。しかし今回、学びを深めて、訪問看護について、ある程度理解し、病院とでの違いも分かり、とてもいい時間だと考えた。今回で訪問看護の魅力を知ることができて、本当に良かったと考える。
91. 訪問看護の実態やどういった経歴から訪問看護に行くべきなのかなど、実態がどうしても想像しにくく不透明感があったのですが、実際に訪問看護の世界に飛び込んだ方のお話が聞けたことで、訪問看護の世界が少し身近に感じることができました。
92. 私自身一人一人の患者さんと向き合いたいという気持ちが強いので、お話を聞いて、病院より在宅の看護の方がいいのかもしれないと思いました。まだ自分がどのような看護がいいか分かってないのでこれから見つけていけたらいいなと思いました。
93. 実際の訪問看護の現場で活躍しているような方の、その人らしい生活を住み慣れた場所で送れるように支えたいという考えが、地域での医療が進んできている現代の現状と合致していて、世の中の需要に合っている業務というのがとても良いと思いました。
94. 訪問看護については大学に入学する前から、訪問看護には興味があったため今回の講演を聞いてまた少し訪問看護もいいなという気持ちが出ました。いきなり訪問看護に行く勇気はないので病院で経験を積んでから訪問看護にいけるようにしたいと思いました。
95. 私はあまり、訪問看護には興味ありません。ですが、実際の看護師さんの話を聞いてやりがいを感じながら楽しく看護ができるのではないのかなと思いました。利用者と関係性や大切に長く看護をしたい！と思う人ほど訪問看護はいい世界なのかなと思いました。
96. 訪問介護は基本的に一人でやることだが、ベテランの先輩の思考過程や行動などを観察し盗むことや、チームの人との連携などにより多方面からアセスメントが行える。そして臨床経験が少なくても、訪問介護を行えられることを知り訪問介護の関心が高まった。
97. 日本の出生数について年々減少している世の中で、どれだけ看護師が求められている存在なのかについても理解ができ、また在宅看護のやりがいについても理解を深めることができたため、将来の自分の職業の選択の一つに考え、参考にしていきたいと思いました。
98. 訪問看護は一人の看護師に対して複数人の利用者の方を担当するため責任が伴い、臨床経験が豊富でないと務まらないと考えていたが、実際は臨床経験だけでなく、限られた時間でどこまで最大限の看護ケアが実施できるかが重要視されることを学ぶことができた。
99. 2040年が高齢者がピークでその頃私は35歳くらいなので覚悟しておこうと思いました。人手が足りないと認知症の方など拘束しなければならなかったり転倒のリスクがあるけどたくさんいれば拘束をせず、目を配ることができたりするので人手は必要だと思った。
100. 訪問看護は病棟での看護よりも一人一人に向き合う時間が確保でき、その方の個別性を考えた看護ができることを学びました。これまで在宅看護にはあまり興味がなかったのですが、今回の講義を聞いていつかは在宅看護師として働いてもいいのかなと思いました。
101. 出生数の年次推移が第一次ベビーブームを気に、年々減少傾向であることから、生産年齢の減少しており、要介護認定数や看取り数の増加していることが分かった。そのため、在宅医療の必要性・重要性が上がり、看護協会の支援として、訪問看護の推進があるのだと思った。

102. 訪問看護はこれからも需要が高まっていくことは理解していたが、訪問看護は少人数で病院ではなく、決まった数の物品で看護をするという、さらに応用が必要と考えていたため、視野に入れていなかった。しかし、奨学金を返済した後の一つの選択肢として、とても興味深いと思った
103. 訪問看護師に限らず、クリニックなどで働く看護師はある程度臨床経験を積んだ看護師でないといけないと考えていたので、新卒看護師でも働けるのだということを知りました。また、訪問看護では、限られた時間内でどう看護を行っていくのがとても重要になってくると思いました。
104. 新卒看護師や臨床経験の浅い看護師が訪問看護ステーションで働いても、経験が浅く技術もあまりないので使い物にならなくて迷惑なのではないかと思っていましたが、今回のお話を聴いて、決してそのようなことはなく、経験が浅くても受け入れてくれることはありがたいなと思いました。
105. 実習で訪問看護ステーションに行かせていただいて訪問看護について興味もてました。働いている看護師さん達が働きやすい、利用者さんとの距離も近くやりがいがあると言っていたのが印象的でした。わたしは看護技術を身につけてから訪問看護師も視野に入れていきたいと思います。
106. 看護協会の講義を聞いて、訪問看護とは患者1人1人により個別的な看護を提供することができるのだと思った。また、訪問看護では看護師が患者の自宅にお邪魔させていただくため、自分の常識が相手の非常識になる可能性があるため、自分の固定概念を押し付けることはよくないことだと学んだ。
107. 訪問看護は1人で全て判断して対応しなくてはならないのが不安だなと思っていたが、実際の訪問看護の場ではタブレットなどを活用してチーム医療を行っていると初めて知り、訪問看護師の負担が軽減されるだけでなくよりよい看護・医療を利用者さんに提供できることにも繋がっていると学んだ。
108. 私は訪問看護に対して、1人で訪問しても急変したらどうするかや、判断は一人ですのかなどが気になっていたため、急変対応ができるように技術をつけるための講習会があったり、判断に困った時は他の人と相談できると知って、そのようなサポートがあれば働けるのかもしれないと思いました。
109. 訪問看護について、病院での病棟と違って、患者さん一人一人にじっくり向き合うことができる点がとても魅力的でした。病棟だと、複数の患者さんを受け持って一人一人と関わる時間はそう長くありませんが、在宅看護では、訪問時は一人の患者さんと向き合えるなど、病棟との違いとしていい点だと思いました。
110. 本日の講義を受けて在宅看護の仕事ややりがいについて知ることができました。在宅では、訪問中に対象がその目の前の患者のため一人一人にじっくりと向き合うことができると分かりました。また、在宅での看護となるため患者が安心できる環境でその人らしさを最大限に尊重したケアが実現できると分かりました。
111. 高齢化がどんどん進んでいる日本で、訪問看護の必要性や需要が高まってきている中で、今回の講義を聴くことができ良かったです。訪問看護は、利用者さん一人一人の自宅を訪問することで利用者さんも安心して看護を受けることができ、看護師も利用者さん一人一人としっかり向き合うことができるのだと感じました。
112. 看護協会の在宅看護に関する講演を受けて、患者さんが自宅で安心して生活できるよう支える看護の重要性を強く感じた。特に、生活環境や家族の状況を把握し、個別に対応することや多職種連携の大切さが印象的だった。また、急変時の迅速な対応や適切な判断力を養うことが在宅看護の質を高めるポイントだと理解した。

113. 今後、高齢化がさらに進み、医療のニーズが高まってくることを改めて実感しました。多様な医療ニーズに応えられるよう、「疾患を持つ患者さん」として見るのではなく、対象者の生活にも焦点をあてるようにしたいと感じました。自分がやりたい看護を明確にして、将来の選択肢の1つに訪問看護も取り入れてみたいと感じました。
114. 訪問看護実習でも将来の仕事として訪問看護をしたいと考える機会になりましたが、今回の講演でその考えを改めて感じる機会となりました。私は病院で少し働いてから訪問看護師を目指していきたいと思います。私の住む地域は高齢者率が県内トップです。そんな地域の人々をすこしでも支えることができたら嬉しいと思います。
115. 訪問看護は、病棟の看護に比べ、時間に縛られて、出来ないケアが出てくるのが少なく、ひとりひとりとしっかり向き合っ、看護ができるというのはすごく魅力的に感じた。そのためには、しっかりとコミュニケーションを自主的にとり、患者本人だけでなく、その家族についての支援も考える必要があるのは難しそうであると思った。
116. 日本の人口が近年減少傾向であることに準じて、以前は18歳以上の人の18人に1人が看護職を目指す必要があったところが、現在は18歳以上の人の12人に1人が看護職となる必要があることが分かり、生産年齢人口の減少や看護職の人手不足、高齢化などが関連し合い、現在の日本の大きな問題・課題となっているのだと感じた。
117. 訪問看護のリアルがわかりました。自分は病棟である程度経験を積んでからでなければそもそも訪問看護師として雇ってもらえないと思っていたので実体験を聞いたり、急性期病棟が減少している中で訪問看護の必要性がどんどん上がっていることがわかりました。今回の講義を聞いて将来は訪問看護で働いてみたいという1つの道ができました。
118. 訪問看護はこれからどんどん需要が高まる領域だと思うので、もっと力を入れていけばいいと感じました。私は看護師免許を持った養護教諭になることが目標なので、あまり興味のない領域ですが、坂口さんの実体験は、臨床経験が浅くても挑戦できる勇気を与えてくれました。不安に対してどう向き合うかの具体的な工夫も参考になりました。
119. 最もプライベートな空間で看護を実践するため、病院ではなかなか見ることの難しい患者の個性に触れることができ多くの発見があるため面白そうだなと興味が湧いた。しかし、その分プライベートな空間のため使用できる物品も限られるし、その場にいる看護師は多くて2人のため慎重に判断してケアを行う必要があるため責任重大であると感じた。
120. 働き続けられる環境づくりが大事と言っていたことが印象に残っています。新卒で、新しい環境に慣れるということは大事だとは思いますが。一方で、働きづらいつ感じるのであれば、なぜそう感じているのか考えることも大事になるのだと思いました。当たり前だと思えることでも、自分が感じる違和感を突き詰めてみる必要があるのだと考えます。
121. 患者さんと向き合える時間が長かったり、患者さんやその家族と密にコミュニケーションをとれる点が訪問看護の魅力だと思いました。3年は臨床経験積んだ方がいいという声を多く聞きますが、臨床経験が短くても、先輩方や周りのサポートを受けて、焦らず、自分のペースで看護を提供できるようになるため、「臨床経験を積まない」という思いが覆りました。
122. 講義の初めに訪問看護師に関するお話を聞いた際に患者さんは増える一方である中で訪問看護師のなり手が少ないと聞いて驚いた。みんな卒業後に急性期や小児科など病棟に就職するが、在

宅でのケアを推進している現在訪問看護の重要性を学んだ。今後もっと増えていく在宅でのケアが必要な方に寄り添うにはどうするのか考えていく必要があると感じた。

123. 訪問看護では1人で利用者の家に訪問するため、自分が間違った判断をしてしまわないかととても心配でした。しかし、訪問は1人ですが、判断はみんなですることがわかって少し安心しました。病院での看護と違って、1人1人の利用者として深くかかわることが出来るのは、利用者のニーズを叶えるためにも、個別性の高い看護を行う上でも魅力的だなと思いました。
124. 講演を聞いて、訪問看護のやりがいを実体験を通じて感じる事が出来ました。ケアしているつもりが助けられていたとおっしゃっており、自分のことでいっぱいになってしまったときに利用者さんにあるような言葉をかけてもらえたらとても報われたような気がして、そんな風に言ってもらえるのも一人ひとりに割く時間が多い在宅看護ならではだと思いました。
125. 今回の講義を聞いて、病院とは違う看護の仕方について学ぶことができました。病院では患者のニーズにすべて答えることは難しいけど、訪問看護では、患者と近い距離感で接することができるので、より満足感を患者に与えることができるのではないかと考えました。訪問看護を通して、生活を送ることができるように支援することが大切であると感じました。
126. 在宅看護は病院よりも患者との距離が近いのではないかと感じた。患者さんからケアをしてもらっていると感ずることもあるようで、逆に勉強させられることもあるのだと感じた。また病院である物品も家であるものを使ったり、点滴などもドアのちょっとした凸凹したところにかけて、やり方全てに個別性があり、工夫しながら看護していくことが大事だと思った。
127. 今日の講義を通して、訪問介護のさまざまな魅力を知ることができました。特に、利用者さんとの関係を築くことで自分が利用者さんに対してケアを行うだけでなく、利用者さんからもケアを行ってもらう環境が生まれ看護を提供しやすい環境が生まれると同時に、自分自身の精神的苦痛の緩和や利用者さんのお宅への訪問に対するモチベーションに繋がるのではないかと考えました。
128. 私は今まで訪問看護はステーションに同じ訪問看護師がいたりヘルパーさんや医師がいたとしても、ご自宅に訪問する際には1人で心配だと思っていた。しかし、今は医療用のSNSがあり、「今、電話できますか」などタイムリーに情報伝達をすることのできるシステムがあり、自分で考えることも大切だけど他の訪問看護師に聞くということも大切だということがわかりました。
129. 訪問看護の魅力について知ることができ、将来の選択肢として訪問看護を視野に入れることも良いなと思いました。病棟とは異なり、利用者さんの個別性を広く捉えることができたり、決まった時間ではあるが利用者さんと最大限に使うことができたり、利用者さんも看護師も互いに満足度が高く得られるのではないかと感じました。自身の働きやすさも大事にできたら良いなと思います。
130. 本日の講演を聞いて、在宅看護と言っても自宅に限らず看護を行うことや病棟看護と違って疾病で患者を診るのではなく患者自身を見るのが在宅、訪問看護だと考えました。病棟では「?疾患の?さん」ということが多いのに対して「?さんが?疾患」ということを講演で聞き対象の捉え方の違いに納得しました。病棟よりもさらに個別性に満ちた看護を提供していることも同時に学びました。
131. 訪問看護では病棟での看護に比べてより個別性の高い看護を実施することができることを改めて学ぶことができました。医師からの余命宣告を受けた方が桜を見たいという希望から、訪問看護の人の余命宣告を超えて桜を見てほしいという思いと利用者さん本人の生きたいという気持ちが通じ合い、

桜を見届けることができたという訪問看護では本人の希望を最大限尊重することができるかと学びました。

132. 現在の日本では、人口が減少傾向にあり少子高齢化に伴い高齢者の要介護認定者の増加と死亡数の増加があることをしれました。今までは少子高齢化の子どもが少なくなっていて生産年齢が少なくなっていることや高齢化が進んでいるという事などを重視していた傾向が自分にあっただけで、今後は高齢化率の増加に伴う要介護者の増加や死亡数の増加にも重視して看護展開などを実施出来たらと思いました。
133. 今回の講演を通して、訪問看護についての理解が深まりました。これまで訪問看護は経験のある看護師が行うものというイメージが強く、自分にはまだ遠い存在だと思っていましたが、臨床経験が浅くても挑戦できることを知り、視野が広がりました。また、坂口葵さんのお話からは「訪問看護 = 不安が多い仕事」というイメージが、「その人らしさを大切にできる、やりがいのある看護」へと大きく変わりました。
134. 要支援、要介護認定が 20 年間の間で増加している理由として高齢者数が増加していることも関係しているが、要支援・介護認定をもらうことで受けられる福祉サービスなどが増加していることも認定者数の増加につながっていると思う。臨床での経験を十分に積んでから訪問看護に移ることが基本だと思っていたが、話を聞き、先輩方のサポートを受けながらも基礎基本ができていれば可能だということが分かった。
135. 全員が利用することは難しいので、ご自身で申請しなくてはいけませんが、申請方法がわからない高齢者は多く、そういった、申請したいのにできないという事がないようにする事は重要だと学びました。また、訪問看護師は 1 人で利用者さんのお家に行き、ケアを行わなく手はいけないうえ、ある程度の臨床経験は必要だと思っていましたが、様々なサポートがあり臨床経験が浅くても大丈夫ということ学ぶことができました。
136. "病院では「〇〇病の A さん」ととらえるが、在宅看護では「A さんが〇〇病」といった捉え方ができるため、どちらも個別性に応じた看護ができると思うが、在宅看護の方がより A さんを主体とした病態や看護などを考えることができると感じた。また病院よりも長い年月をかけて患者と関わることができるため、信頼関係を築くことができ、患者が希望などを話してくれるなどのコミュニケーションが密にできると感じた。"
137. 訪問看護では、目の前の患者さんと長期間にわたり深く関わり、ただ疾患を治療する場に留まらず、疾患を抱えながらも「その人らしい生活」を送ることを支援することができるという点や、これまで大切にしてきた生活スタイルや価値観を大切にして、決まった時間に行われる病院でのケアとは異なり、在宅では患者さんの生活リズムや好みに合わせたケアを提供することができる点が在宅看護の大きな魅力的であると感じました。
138. 訪問看護の重要性とそれを支える体制を改めて実感しました。人材育成だけでなく、就職フェアや地域連携フォーラム、見学体験など、実際に現場を体感しながら学べる機会が提供されているのは、訪問看護という専門領域に対する理解と関心を深める上でも非常に効果的だと感じました。今後、在宅医療の需要がますます高まるため、これらの制度を積極的に活用し、自身の成長と地域への貢献につなげていきたいと感じました。

139. 在宅看護は病院看護師と比較すると、一人一人と密接にかかわりを持てることを学びました。また、対象だけではなく、家族や地域の方とも密接に関わりを持てる領域だと考えました。病院看護師だと、沢山の患者を受け持つため、一人一人と関わる時間は少ないですが、在宅看護師は、対象の家族を見据えて看護ケアを行っていく必要があるため、対象と密接にかかわることができ、とてもやりがいを実感できる領域だと考えました。
140. 実際にグラフや表で年次推移を示して下さったため、出生率の減少や分かりやすく、現状どういう課題を抱えているかの根拠が理解しやすかった。実際の訪問看護の体験談では、「病院ではできないこともある程度行うことができる」という点が印象的だった。お花見の例のように、在宅環境だからこそでき、それによって患者(利用者)の望む理想の最期を提供できると考えた。そのため在宅看護は終末期看護との関わりが強いように考えた。
141. 今回の講演を受けて、在宅看護は利用者さんの生活の場で行われる看護であり、病院に比べて関わりができる期間が長いからこそ信頼関係の構築とより個別性に満ちた看護の提供が重要となるということを改めて学びました。そのためには、自身の常識にとらわれないようにしつつ、利用者さんが適切なケアを受けることができるように身近なもので代用していくなど、生活の場をより柔軟に捉えていくことが重要であると感じました。
142. 訪問看護は地域住民との関わりがとて近くなるため、どのような看護を提供するのかを考える機械となった。また、人口背景において、高齢者人口及び高齢化率が高まっているため、高齢者に対する自宅での看護が必要となる。また、提供する看護の質を高めるために、看護協会が存在していることがわかった。千葉県は二次医療圏別訪問看護ステーションが実在しているため、地域でどのような位置関係にあるか知ることができた。
143. 臨床での経験が十分ないと、訪問看護師になることは難しいものだと考えていました。しかし、本日の講演を聞き、新卒でも訪問看護師になるためのさまざまなプログラムが用意されていることを知りました。また、病棟と比較して一人一人に時間をかけて向き合うことが出来るということも知りました。看護と言えば病棟ばかり思い浮かべていましたが、一人一人に時間をかけて寄り添った看護をできる訪問看護にも興味を湧きました。
144. 今回のガイダンスを通じて、在宅医療や訪問看護の大切さを改めて実感しました。特に、住み慣れた自宅で安心して療養できる環境づくりがいかに重要かが心に響きました。また、坂口さんの経験談からは、訪問看護のやりがいや直面する不安への向き合い方がリアルに伝わり、自分自身も将来の進路として前向きに考えてみたいと感じました。人と深く関わり合える看護の魅力を再認識し、自分の看護観がさらに広がった気がします。
145. 看護協会が具体的に何をしている団体なのか理解していないところがありましたが、看護の質向上、働きやすい環境づくり、看護領域の開発発展を行う、など看護の活動を支えている団体であることを学びました。また、その中でも訪問看護の推進をしており、今回の講義を聞いて在宅看護がとても魅力的に感じました。卒業後すぐ訪問看護師をするには不安が多いので、経験を積んでからの新しい道として訪問看護に興味を持ちました。
146. 病棟では1人に決まった時間をさけないことで、患者が心を開いてくれたとしても、ナースコールがなったら他の人のところに行かないといけなけれど、在宅では患者一人に決まった時間を割くことができることで、できる看護が増えることを知って、在宅医療の良さをより感じることができました。

147. 病院内の看護でも、対象の生活を考えながらの治療・看護を考えますが、訪問看護ではその生活を考えながらの治療・看護が最も重要な点であるとお話を聞いて感じました。一人で対象のご自宅にお邪魔するという点が心配だなという印象がありましたが、ベテランの方と同行したり、研修制度があったりと、働きやすい環境が整えられているのだと分かり、以前より訪問看護に対する興味がわきました。
148. 臨床経験が浅くても訪問看護師として働くことができることにとても驚きました。実際に働いている訪問看護師の方の話を聞いて、とても勉強になり、訪問看護の道に進むことも視野に入れようと初めて思うことができました。これから、今以上に高齢化が進む中で、自宅で自分らしい生活を行うことをサポートする訪問看護師はとても需要があり、やりがいのある仕事であると学ぶことができました。
149. 今後在宅での看護は、需要が高まっていることが分かりました。また、訪問看護師は、臨床経験が少なくても働くことができると聞いて驚きました。訪問看護のイメージとして、ある程度病棟で経験を積んでから、経験豊富な看護師が訪問看護で働いていると思いましたが、臨床経験が少なくても安心して働けるような場所であることを聞いて訪問看護に興味を持つことができました。
150. 訪問看護のハードルが自分の中ではとても高かったのですが、今回の講義を受けてハードルが下がりました。今の時代病院で看護を受ける日数が減り、在宅療養が多くなっているため臨床で経験を積み訪問での看護も視野に入れたいと思いました。
151. 今までの講義と、今回の講義で共通点を見つけました。在宅看護の授業では、病棟看護師の時と比べて季節を感じるようになったとみなさんからお聞きしました。また、病棟よりも個別性に特化して看護ケアができること、一人ひとりと長くお付き合いするという点も魅力的だと思いました。3年生になったばかりのときは訪問看護に興味がなかったのですが、一度病棟で技術を身に付けてから訪問看護師をやってみたいと思いました。

<就労先候補、育成プログラム・教育制度、経営等について>

152. 元々興味はありましたが、病院以外での選択肢を選びたいと思っているので有力候補として訪問を考えてみようと思いました。
153. 利用者からの感謝の言葉を直接聞くことが多く、やりがいを感じる機会が多いと知って、機会があれば訪問看護ステーションで働きたいなと思いました。
154. 訪問看護師はハードルが高いイメージがあったが、今回の講義でそうではないことが理解できた。一人一人に割ける時間が増えることで、質の良い看護ができると分かった。訪問看護師として働きたいと感じた。
155. 今後在宅医療の需要が高まっていくため、訪問看護が地域の方の生活を支えるため、更に重要になっていくということがわかりました。病院で勤務して技術が身についたから訪問看護師になるというイメージが強かったため、新卒からも就職でき、育成プログラムがあると知れて良かったです。将来の選択肢の1つとして考えていこうと思います。
156. 訪問看護について、あまり理解出来ていなかったため、今回の講義で知識が増えました。考える就職先のひとつに入れようと思いました。

157. 今まで、訪問看護の存在は知っていたのですが、あまり考えたことはなかったです。でも今日のお話を聞いて、将来の選択肢の1つに入れたいなと思いました。
158. 将来的に訪問看護をやりたいと考えています。しかし、今2歳の子供と妊娠中であり、その中で病院で働いて経験を積んで訪問看護をやろうと考えていました。30歳から看護学校へ入り、学生中に出産をして、学生でありながらキャリアと妊娠出産に悩みます。参考にしたいと思います。
159. 私自身、卒業後はまず病院で働き、スキルを身につけながら技術や知識を磨いたうえで、将来的には訪問看護や看護小規模多機能型居宅介護で働きたいと考えていました。本日のご講義では、これからの人口推移に伴う在宅看護の需要や、新卒でも在宅看護に携わることができる理由についてお話を伺い、在宅看護への興味がさらに深まり、いつか必ず在宅看護の現場で働きたいという思いがより強くなりました。
160. 訪問看護について漠然としたものが少しわかりました。病院で働いて、将来的に訪問看護師になれたらなと思います。
161. 私は将来訪問看護師に実際なろうと昔から考えていたんですが、臨床経験が短くても周りの人の支えと自分自身の努力でなれるものと知り頑張ろうと思いました。
162. あまり視野になかった訪問看護の話聞いて、人生の最後まで利用者の方と関わることができるということがとても魅力的で将来機会があったら働いてみたいと考えました。
163. 以前、訪問看護師として働いていました。准看護師の学校を卒業し、外来に1年働き、部署異動で訪問看護となりました。同行は1ヶ月だけ、その後はすぐに1人での訪問。1日に6件はまわり、上司に報告するだけの日々でした。その時に、新卒者等訪問看護師育成プログラムを知りたかったです。
164. 病院とは使用する物品が異なり、カーテンレールを使用しているのはとても興味深く面白かった。また、新卒者等訪問看護師育成プログラムを初めて知り、訪問看護も選択肢に入れてみようかなと感じた。
165. 講義中の言葉で病院では〇〇病の〇〇さんだが、訪問看護では〇〇さんが〇〇病を持っていると患者さんをきちんと人としてみる事が出来るのではないかと感じた。元々訪問看護に興味があったが今日の講義を聞いて教育制度がきちんとあることなどから更に興味が湧き、いつか働きたいと思った。
166. 私は将来在宅看護になろうと思っています。私も急性期で3年積まないと在宅看護は厳しいとお話を聞いたことから新卒で在宅看護はな…とと思っていましたが今回の講演がきっかけで新卒で在宅看護を視野に入れたいと感じました。また、在宅看護の個別性に合わせた看護ができるという点が講演を通してもっと魅力的に見えてきました。
167. 看護協会の講演を受けて、訪問看護は1人1人にじっくり向き合うことができることが魅力の1つであると分かりました。また、人生の最終段階まで寄り添うことも多いため使命感とやりがいを感じることも魅力の1つであると分かりました。「患者さんから学ぶこともたくさんある」ということが私は将来訪問看護をしたい理由の1つであるため、そのために今頑張りたいと思います。
168. 日本全体で訪問看護の需要が高まって来ていることがわかった。将来的には地元で訪問看護師として働きたいと思っていたが、新卒でも訪問看護師として働けるようなプログラムがあることを知った。だから、地元訪問看護に関する課題などについて調べながら今後の就職先について考えていきたい。

169. 訪問看護は1対1なので経験がないといけないと思っていたのですが、今日のお話を聞いて新卒でも入れてプログラムがとても整っていると感じました。サポート体制があり、魅力がたくさんありました。
170. 在宅医療と聞くと、私は看取りのイメージが強くありましたが、看取り以外の場面での看護も多くあることが分かりました。新卒者の育成プログラムなどもあって、働きやすい環境になっていると感じました。
171. 高齢化が進んでいることから在宅看護の需要が高まってきているのだと感じました。新卒で訪問看護師をやるという選択肢は自分の中になかったですが新卒でも訪問看護師を目指すことができるプログラムがあることを知り驚きました。
172. 卒業後臨床経験がなくても、プログラム制度があるおかげで安心して訪問看護への就職を考えることができるように思いました。利用者様が安心して生活しながら療養する場を提供できる、魅力的な職業だと思いました。
173. 今まであまり訪問看護についてはイメージしづらい部分がありましたが、今日の講義を聞いて理解が深まりました。新卒でも働けると知り、プログラムがしっかり組まれていて驚きました。もし将来機会があれば、訪問看護の道も考えたいと思います。
174. "訪問看護には、一人一人にじっくりと向き合い、信頼関係を築きながら人生の大切な瞬間に寄り添うことができると学びました。また、臨床経験が短くても、職場のバックアップや研修を受けながら知識や技術を補填することができるということを知り、様々な方々の生活に触れることで看護師としても人としても成長することができる仕事であると学んで興味が湧きました。
175. 在宅での看護について知ることが出来ました。新卒でのプログラムなどを聞くことが出来て就職の視野に入れてみようと思いました。
176. 訪問看護は、経験を沢山積んだ人がやるものだと思っていましたが、教育制度があり安心しました。
177. 私の目指す先として在宅療養があり、将来的にケアマネージャー資格を取得しようと考えているため、今回の講話から、さらに在宅についての知識が深まったとともに、視点を考えることができた。活かして勉学に励もうと思います。
178. 訪問看護は、自分の希望の中には入っていて、スタッフとして働くより今後の需要も考え、経営を出来ればやりたいと思っています。まだまだ無知ではありますがこの講義を参考にしていきたいと思いません。
179. 自分自身が高齢になってきて、病院で働くのはきついけどまだ働けるというふうになってきたら訪問看護にも興味がある。あと、看護師で経営できるのは訪問看護なので、経営に興味があれば訪問看護に挑戦してみたい。
180. 小さい訪問看護ステーションをたくさん作るよりも大きな事業展開を行う方が経営状態が安定することが分かった。

<不安等>

181. 訪問する際は一人で行うため、急変時の対応や連絡、など心細いのかなと思いました。
182. 訪問看護は病棟の看護と異なり、看護を行う場に利用者や患者の家族がいることがある。訪問看護の特徴として病棟の看護より家族との接点が多く患者個人だけでなく家族全体を観た看護を行

うことができる。しかし、患者と家族の意向が異なることはゼロではなく、家族の意見が強く介入するときもある。そのような場合に自分だったら看護師としてどのように働きかければよいか、またうまく働きかけられるか想像できなかった。

183. 病棟で経験を積んだのちの働く先として訪問看護を考えていたので、関心が深まった。卒業後訪問看護師としてすぐに働くことも考えられるが、訪問看護師として働いた後、病棟で働くことになった場合が不安だと思った。

<意見・その他>

184. 今回事前にガイダンス資料の配信がなく、モニターまでの距離が遠かったため、内容の理解が難しかった。
185. 新卒は病棟で経験を積まないといけないというイメージが強かったですが手厚く指導をして頂けることがよく分かりました。新卒でなくても訪問看護を目指す人もこのくらい手厚い研修があるといいと思いました。
186. 訪問看護についてご説明して下さった方は、大学を出て1年半の病棟経験もある方でした。たしかに訪問看護師としては病院での経験は短いかもしれませんが、専門学校卒でそのまま訪問看護師になった方がおりましたら、そちらの方の体験を聞ければより具体的に新卒からの訪看のイメージができたと思います。
187. 1年目から訪問看護師として働くことも考えて良いということを知れました。一方で、国、県として進めるのであれば、もし訪問看護が合わなかった時の支援まで含めて伝えてもらおうと踏み出しやすいのかと思います。千葉県内の訪問看護の需要状況などあれば面白かったです。
188. 高齢化が進み、訪問看護の需要が高まっていることが分かりました。また、介護保険やサービスがあったとしても、利用者個人からの申し込みが必要である為、支援や制度を知っていても、どうしたら利用できるのかわからない等の情報収集能力が不足している高齢者に対する支援も大切だと思いました。
189. 質問時に恥ずかしくて聞けなかったのですが、先生は仕事をしながら、遠く離れた実家にご両親が体調を崩された時に行けましたか？というのも、私は青森が実家で、親を将来見たいと思って40過ぎてから、看護の道に入ったのですが、実際働いて、忙しいとゆっくり実家に帰ったり、両親の世話をできたりができなくなるのでは…と出てきました。何かへんな質問ですみません。